

戦史資料

独立混成第四旅團第二歩兵隊 (沖縄)

陸軍大佐 宇土武彦

11.20

一、編成裝備関係

1、自己部隊及関係部隊、編制人員、兵器彈藥

(一) 戰鬥前ニ於ケル編成人員

1、独混四四旅團第二歩兵隊

第二歩兵隊本部 一〇八名 (國頭郡本部半島駐屯)

六〇名

一六六名

六〇名

TA RIA ITL

0583

第一大隊 六五七名 (伊江島分駐)

第二大隊 六七七名 (本部半島駐屯)

第三大隊 六三二名 (旅團直轄トシテ島尻ニ分駐)

備考 計 二、三二〇名

右人員、外三月初旬八五〇名ヲ現地ニ於テ防衛召集セリ

2. 一々大隊、歩兵三々中隊 MG 一々中隊、編成ナリ

(二) 指揮下部隊

1. 特設警備第二三五中隊 一四七名

2. 独立重砲第百大隊、一々中隊 一二四名

3. 独立速射砲隊 (諸江隊) 一〇〇名

4. 独立機筒銃隊 (小川隊) 一〇七名 (伊江島ニ分駐)

- | | | |
|----|-----------------|-------|
| 5 | 第三遊藝隊 | 七〇一名 |
| 6 | 第四遊藝隊 | 三九三名 |
| 7 | 海軍第九砲台 | 三九名 |
| 8 | 船舶工兵隊 (曉部隊) | 六四名 |
| 9 | 第一特務班 | 一五名 |
| 10 | 野戰病院分院 (渡口隊) | 二一名 |
| 11 | 軍通信隊 (有線無線) | 五六名 |
| 12 | 鉄血勤皇隊 (中學生三三編成) | 一四九名 |
| 計 | | 一九二六名 |

0585

2. 職員表

0586

球第七〇七一部隊將校編成表

第 II 大隊	隊大			部 本 I 大隊	部 宇 土 武 彦	本 部隊長					
	少 中 尉 滿 留 勉	少 中 尉 平 良 直 大 尉 中 尉 三 澤 家 矩 中 尉 三 浦 良 直 大 尉 中 尉 三 澤 家 矩 中 尉 三 浦 良 直 大 尉 中 尉 三 澤 家 矩	少 中 尉 吉 岡 登 中 尉 前 田 爲 徳 少 尉 高 野 善 則 少 尉 壽 三 千 也			少 中 尉 大 崎 優 中 尉 草 牧 寛 少 尉 永 徳 隆 中 尉 児 島 高 富	少 中 尉 井 川 正 軍 医 中 尉 比 嘉 盛 茂 見 玉 俊 介 主 計 中 尉 福 山 貞 次	少 中 尉 緒 方 文 雄 少 尉 生 森 豊	少 中 尉 熊 田 正 行 面 橋 樹 少 尉 東 海 清 一 少 尉 藤 原 義 通 少 尉 森 山 大 一 少 尉 藤 原 義 通 少 尉 西 長 盛 少 尉 新 里 幸 徳	少 中 尉 片 山 律 主 計 佐 大 尉 中 島 茂 白 少 尉 山 本 緑 少 尉 西 村 正 利 附 見 士 手 塚 賢 一 少 尉 依 藤 一 美	少 中 尉 長 長

0587

		隊大三第					隊大				
		部本Ⅱ					部				
步兵砲隊		尾崎源一					佐藤富夫				
速射砲隊		大尉					佐藤基生團井和之				
中尉 清末一義		中尉 平永猛					中尉 前田利男				
中尉 浦地進太郎		中尉 井本元義					中尉 三宅重之				
少尉 葛井對馬		少尉 一甲豊					少尉 村尾重徳				
		少尉 山口 祝					少尉 國武日天				
		少尉 森山 寛丸					少尉 桑畑 政				
		少尉 渡辺 昌三郎					少尉 徳重 盛秀				
		少尉 御年 洗善太郎					少尉 庄野 勇八				
		少尉 田尻 俊藏					少尉 清村 敏治				
							少尉 上田 保門				

0588

3. 人員兵器等増減関係

兵器増減関係

器				兵				種目	全員数	戦斗準備 時期自教員数	戦斗準備 員数	摘要
一五種海軍砲	一五種加農砲	三八式野砲	三一式山砲	三七種速射砲	九二式重機砲	九九式軽機砲	九九式輕小銃					
二	二	二	四	四	一八	九一						
					一一	八一						
					六	一〇						

0589

種		目		全員数		戦時準備 時期数		戦時 数		摘要	
彈		小銃彈	實包	八〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇				
彈		重機	實包	一二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇					
彈		三七種	連射砲彈	三五〇〇	一,二〇〇	三,三〇〇					
彈		三一山砲	彈	三二〇〇	一,〇〇〇	一,三〇〇					
彈		三八式	野砲彈	八〇〇	八〇						
藥		手榴	彈	八二〇〇	三,〇〇〇	五,二〇〇					
藥		戰車	地雷	五〇〇		五〇〇					
藥		小機	雷	二五〇	二五〇						
藥		發煙	筒	四〇〇〇		四〇〇〇					
藥		照	明彈	三〇〇	三〇〇						
藥		爆	藥	六五〇〇	二〇〇〇	四,五〇〇					

0590

4. 現地住民使役ノ関係 (指揮下部隊全部ヲ含ム)
1. 一日使役人数 (男女) 一、三〇〇人
2. 使役期間約五ヶ月 一九五〇年

0591

二 部隊履歴概要

一 昭和十九年六月七日 西部第十七部隊ニ於テ約半會部ノ動員完結

一 今年六月十八日 駐營出發

一 今年六月二十六日 鹿見島港富山丸ニテ出發

一 今年六月二十九日 德島沖ニ於テ敵潜水艦攻撃ヲ受ケ沈没約五千名(他部隊ヲ含ム)内約四百名(内當部隊約二百名)生存他ハ死亡又ハ生死不明トナル

一 今年七月七日 沖繩縣那霸ニ上陸シ 独混四四長ノ隸下ニシ

一 今年七月十六日ヨリ 國頭支隊トシテ名護 後ニ本部半島伊豆味ニ駐留シ專ラハ重岳附近防禦陣地構築及戰鬥訓練ニ從事ス 欠員ハ内地及現地ヨリ補充セラル

0592

- 一 今年十月十日空襲ヲ受ケタルモ人員其他殆ド損害ナシ
- 一 今年十二月十八日軍命ヨリ一ヶ大隊ヲ伊江島ニ一ヶ大隊ヲ島尻方面ニ轉出セシメラレ殘ル一ヶ大隊ヲ以テ國頭郡全域ノ警備ニ任ス
- 一 昭和二十年三月二十三日ヨリ連日空襲ヲ受ク
- 一 今年三月二十六日。八〇〇。甲號戰備下令
- 一 今年三月二十九日敵ハ嘉手納ニ上陸ヲ開始ス
- 一 今年四月一日許田ニ敵ハ上陸名護方面ニ進出ス
爾後本部半島ヲ中心ニ激烈ナル戰鬥ヲ展開ス
- 一 軍命ニ基キ今年四月十七日日本部半島ヨリ夕ニヨ岳ニ轉進ス

0593

一 爾來遊島戰ヲ續行

一 勅令ニ基キ今年十月二日米軍ノ指揮ヲ受ケ屋嘉收
容所ニ入ル

一 今年十二月三十日部隊長以下六一名内地ニ復員ハ
為屋嘉ヲ出奔(他ハ殘留)

昭和二十一年一月七日浦賀ニ到着今日上陸肉東
上陸地第二宿舍ニ宿營ス

0594

三、指揮隷屬關係其變遷、概要

1. 昭和十九年七月七日獨立混成第四旅團長隷下に入

2. 昭和十九年十二月一日獨立混成旅團長、指揮下

腕：團頭支隊長トナリ第三十二軍、直管トナ

3. 昭和十九年十二月一日左、各隊支隊長、指揮下

二八〇

1. 第三遊撃隊、第四遊撃隊、獨立砲兵、第百大

隊、一中隊、獨立連射砲、第四大隊、一中隊、

特務班、海軍第九砲台

0595

24. 昭和二十年三月二十三日對斗開始ト共ニ在
運天海軍部隊及金武橋附近海軍部
隊在伊江島航空團係部隊 支隊ヲ指揮
下ニ入ル
25. 今年四月三日稼設第一聯隊團長支隊
指揮下ニ入ル

0596

四、作戰準備關係

一、作戰計畫、概要

國親支隊ハ右部半島ハ重兵固及伊江島ヲ堅固
ニ守備シ敵ノ伊江島飛行場使用ヲ妨害シ情況
此ヨリ得サレニ至レハ名護岳北方ヲ三岳附近並ニ
恩納岳附近ニ轉進シ遊撃隊ヲ以テ軍ノ作戰
ニ果與ス 尚第一及第二遊撃隊ヲ以テ予ソ
ク三岳並恩納岳附近ニ配置シ戰鬥ノ初期ヨリ
遊撃隊ヲ管遊セシム

二、防禦方針

予ノ右部半島ニ配置セル陸海軍重砲台ニ門
十五種加農ヲ以テ伊江島中飛行場ニ進出スル

敵ヲ射撃セシムルト其ニ可成至近ノ距離ニ之ヲ近
接セシメ一隊ヲ二陣前ニ布テ其ニ南台敵艦ニ
敵ヲ拒止ス

口、防衛軍配備

八重岳地区(指揮官園部友隆長 宇土大佐)

第一歩兵隊(欠I、III)

曲射歩兵砲 五門

歩兵砲 四門

重砲 二門(陸軍)

左 二門(海軍)

防衛隊約100名

0598

伊江島地区 (指揮官 第一大隊長 井川少佐)

歩兵第一大隊

飛行場整備大隊

特設独立工兵大隊

独立速射砲中隊

独立機銃中隊

第一遊撃地区 (4ヶ所 南の方より久志迄の谷間に在り) 指揮官 井川上大尉

第三遊撃隊 (約700名)

防衛隊 (約500名)

特務隊 第三五中隊 (約170名)

第二遊撃地区 (久志迄の谷間に在り) 指揮官 岩波大尉

第四遊撃隊 (約400名)

特務隊 第一隊 (約500名)

0599

海軍部隊 (約二〇〇名)

又、陣地ノ情况

1. 起工時期

昭和十九年十一月廿一日

八重岳地区

昭和十九年一月一日

伊江島地区

昭和十九年六月

遊雲地区

昭和十九年八月一日

所要人員

十九年

延伯

一九五〇〇〇人

2. 完成時期

八重岳地区

主陣地概成

昭和十九年三月

伊江島地区

左 前

強復

堅固ナルモノハ五〇〇kgノ爆弾ニ堪ル
他ノ重機蓋程度

0600

遊軍地也

既而三月一日

張度

輕微ナル秘探據莫ノ絶殺

堅固ナルモノハ重迫ノ射擊ニ堪フル程度

八敵ノ攻襲ニ依ル破壊ノ神修情況

猛烈ナル敵ノ爆襲ニ依リ高地ニモノ多クノ損害アリタル

モ輕微ニシテ洞壕陣地ハ損害ナシ

敵ノ爆襲並機銃掃射ニ砲臺ノ為メ昼間ハ絶対神修不可

能 夜間僅カニ輕微ナル神修ヲ為シ得タリ

伊江島地也ハ陣地固邊ノ部ヲ落_及中央ノ伊江城山ハ原野ナキ

逆ニ破壊セラルルモ 各陣地ハ損害極ナク輕微ナリ

0601

二、港湾施設 飛行場施設

運天港 海軍第77集積隊基地施設

渡口 簡單ナル集積揚陸施設

伊江島 滑走施設ニ所 他ハ未完成

他ニ對テ是前敵ヲシテ利用セシムル目的ヲ以テ破壊

三、作戰準備ニ關スル主要ナル命令内容(概要)

第三項参照

四、軍需品集積状況

不集積

八重岳、伊江島地区

一、五分、主食並副食物

遊樂地区

一、五分、主食並副食物

別ニ遊樂所用トシテ、4ニ重岳ニ主食並副食物及

0602

若干、副食料、集積入

ハ 輸送

陸隊之配属セラルル自衛隊車ニ頼リ以テ卸糶セリ
近巨商ハ馬力及人カヲ以テ困難ナル轉送ニ任セリ

ハ 現地自活情況

牛、豚、鶏、飼養

疎菜、栽培

現地物資ニ在ル甘味品、製造

山口、干、粉、蘇鉄、採集

主食(米、麦、甘藷)、現地購入

二 裨修、轉送ニ依ル航、損耗情況

直接関係ナシ

0603

五 訓練之情况

陣地構築等、敏速ノ極ノ訓練、豫猶極ノテ少カリシモ
 一週ニ亘リ乃至一日半ヲ以テ左ノ如キ項目ニ付訓練ヲ強行セリ
 卒人基礎訓練（特、射撃及手榴彈投擲）
 煤、革類、取扱
 獸肉、肉迫攻專、要領
 夜間敵、兵負、資材、車輛殺傷破壞ノ要領
 飛行機、射撃、要領
 陣地、補修、要領
 潜水行、潜入、挺身、斬込、要領
 伏撃、要領

0604

五、戦斗状況

八重岳地区に要する作戦

(1) 八重岳地区は四月十日より敵偵察攻撃を受け、嗣后

海兵第六師團及飛行機一日二百機、艦船約百五十隻

本格特攻襲撃に付十七日迄該陣地に航空戦斗

爾后各隊東北地方に三岳附近に轉進すことあり

二十日迄敵主力の一師團、攻撃を受け、嗣后遊撃

隊遂行、遊撃の在りて、國頭地区に分進し各部隊

隊毎に地誌戦斗に任す

(2) 伊江島地区は四月十六日より敵(第七七師團)の上陸を

開始し南東防衛に努むるに三三〇遊撃玉砕スルに

至り

(3) 第一遊撃隊ハ、夕三三岳以北南(久志岳)東嶺岳以北に至り

由に航空隊の敵兵艦攻撃、戦車攻撃、破壊に任じ

敵、南進の妨害ス

0605

(二) 第一遊撃隊、恩田岳、石川、兵部進ニ於テ屢戦
嘉牙併北、中西飛行場ヲ奪獲シ、南台主トシテ予
恩田岳ヲ占據シテ敵約ヲ懈國ヲ拒止ス

2. 機動部隊未襲状況 本初八軍岳地ニ三回突

伊江島ニ奪下師団
國領北方面ニテ師団未襲シテ月、右基、主力ハ島尻
方面ニ南進ス

3. 敵機未襲状況

一〇、一〇延五〇機波状攻撃セリ渡久地及運天港ヲ爆撃
シ船舶及彈薬ニ若干ノ損害アリ
三、三三〇以降連日一日延約三百機未襲陣地及船舶
名護市街及伊江島ニ於テ機列ニシテ爆撃ヲ受テ被害
甚大ナリ

4. 敵機ノ損害

八機墜陸何レモ敵兵ハ即死シ在リ

0606

六、ガ落ト下時音障ト音ニ并スル要置
該書ナシ

六、敵、豫虜勇数
該書ナシ

六、給養衛生

糧秣ニ乏少、如ク集積シ在リタル先、遊東、戦ニ轉シテモリ
常ニ之ヲ携行スルコト困難ナシ、情況ニシテ、遂ニ作戦末
期ニ於テハ、全般的ニ極度ニ食糧難ニ陥リ、之ニ加フルニ
マシ、ヤ、疲勞、ハ、タノ、華、美、食、飲、ニ、衰、ハ、母、敵、ノ、聲、ヲ、生、ス、ル、至、リ

七、給食日、師還還、返、行、動、概、要

山東地帯ニ在リ、爲メ、八、二、五、和、令、ヲ、知、リ、タル、ハ、九、月、半
ニ、テ、南、河、谷、等、ト、行、動、ヲ、中、止、シ、遂、ニ、部、隊、ヲ、集、結
シ、テ、十、月、二、日、米、軍、ノ、指、示、ニ、應、ジ、屋、蓋、加、シ、收、容、セ、テ、
帰、還、セ、ル、至、リ